

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Dコート	第3試合 12:00~																
<チームA> 樹徳 群馬 2位		114 { <table border="0"> <tr><td>20</td><td>1Q</td><td>21</td></tr> <tr><td>16</td><td>2Q</td><td>23</td></tr> <tr><td>31</td><td>3Q</td><td>26</td></tr> <tr><td>29</td><td>4Q</td><td>26</td></tr> <tr><td>18</td><td>OT</td><td>16</td></tr> </table> } 112		20	1Q	21	16	2Q	23	31	3Q	26	29	4Q	26	18	OT	16	<チームB> 県立八千代 千葉 5位	
20	1Q	21																		
16	2Q	23																		
31	3Q	26																		
29	4Q	26																		
18	OT	16																		

【Bブロック】

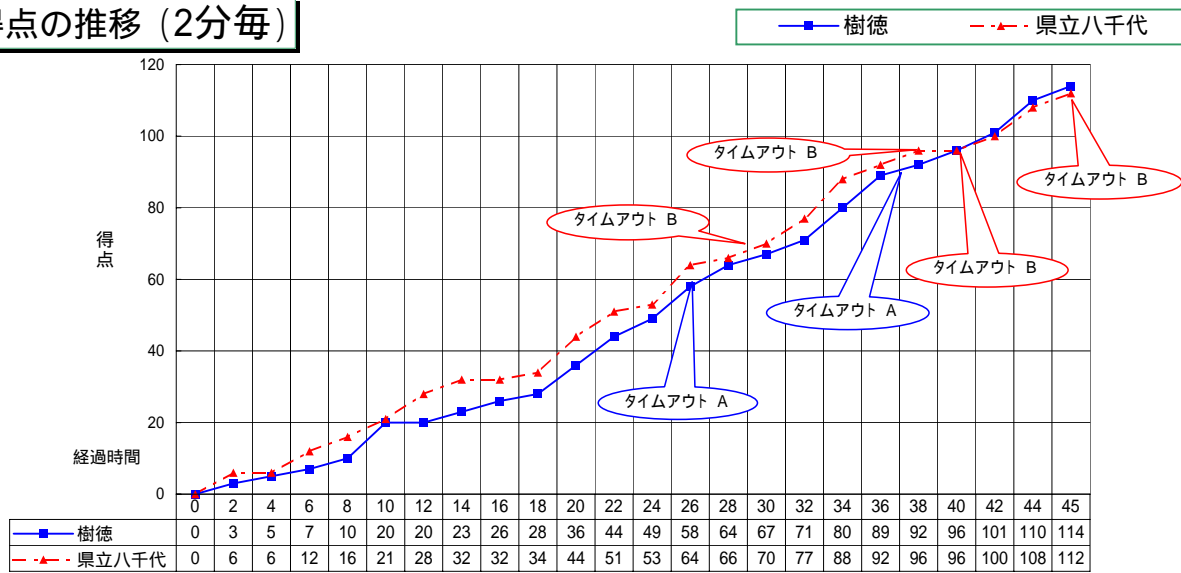
主審：稲葉 威(本部) 副審：大内 翼(茨城)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	松島 裕称	40	7	7	5	4
	5	深澤 祥典					
	6	桑子 和樹	2		1		1
	7	飯塚 岳寛	15		7	1	3
	8	川島 拓					
	9	若林 一貴					
	10	下石 将希					
	11	丹羽 智紀					
	12	高野 史	10		5		4
	13	藤重 直希					
	14	小倉 康彰	32	10	1		2
	15	細田 晃大					
	16	田名網 和貴	11		4	3	3
	17	高橋 諒多					1
	18	高桑 悠	4		2		1
コーチ		小野 澄一郎					
合計			114	17	27	9	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	蜂谷 直人	13	1	4	2	4
	5	折目 大河					1
	6	龍田 和樹	14		7		4
	7	田中 健太	36	6	9		1
	8	小玉 裕介	40	1	16	5	2
	9	永瀬 裕	9	3			3
	10	奥山 健太					
	11	村山 尚之					
	12	渡部 晴暉					
	13	川島 諒之					4
	14	秋本 遼					
	15	鈴木 進平					
	16	高澤 健					
	17	鈴木 朋哉					
	18	細根 広達					
コーチ		相田 貴史					
合計			112	11	36	7	

：スターター / ：出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評 記入者： 中山 徹也

共に激しいディフェンスから速攻を狙う、非常に似たタイプのチーム同士の対戦で、最後まで目の離せない好ゲームとなった。
 第1P、樹徳は1-2-1-1のカウント・オールコートゾーンプレス～ハーフコート2-1-2ゾーンディフェンス、八千代は2-1-2のオールコートゾーンプレス～ハーフコート2-1-2ゾーンディフェンスでスタート。立ち上がりは両チームともアウトサイドシュート、フリースローが不調でロースコアの展開。最初に主導権を握ったのは八千代。樹徳の不調な3pシュートのリバウンドから速攻、得点につなげ、リードをする。しかし、樹徳は8分過ぎに 小倉の3pシュートが決まってからは、カウント・プレスを仕掛けられるようになり、流れを掴む。その後は一進一退の攻防で20-21八千代リードで第1Pを終了。
 第2Pは、八千代が 永瀬の3pシュート、小玉の速攻などで出だし3分で9点差とする。その後は樹徳 小倉、八千代 田中が3pシュートを入れ合い、互いに譲らない。結局第2P序盤のリードを生かした八千代が36-44とリードして前半を終了した。
 第3Pは両チームともシュート確率が上がり、点の取り合いとなる。樹徳は 松島、小倉が立て続けに3pシュートを決める。八千代も樹徳のゾーンプレスをかいくぐり、田中が速攻、3pシュートを決めるが、3pシュートの本数で上回る樹徳が5分過ぎには4点差まで詰め寄る。樹徳 小倉の3pシュートに対して、八千代はダイヤモンド・ワンを仕掛けるが、樹徳は 松島の3pシュートなどで8分過ぎに67-64と逆転する。一方、八千代も 小玉のゴール下などで加点し、再逆転、67-70八千代リードで第3Pを終了。
 第4P、八千代はオールコートマンツーマンディフェンスで樹徳の3pシュートに対抗する。しかし、樹徳は 松島がドライブインを次々と決め、徐々にリードを縮める。8分過ぎに樹徳が89-88と再逆転してからは一進一退の攻防となり、96-96で延長戦となる。
 延長に入っても一進一退の攻防は変わらない。樹徳が 松島の3pシュートやドライブインでリードを奪えば、八千代は 龍田のバスケットカウント、永瀬の3pシュートで食らいつつ展開となる。しかし、ファウルの混んだ八千代に対し、樹徳が1本ずつながらもフリースローを決め、結果、114-112と勝利した。